



ほっと通信 (令和3年9月)



子供たちの力を最大限に伸ばすためには、「ほめる」とことと同様に上手に「しかる」方法を身に付けることが大切です。よいことやよくないことを子供たちがしっかり理解できるように、以下の『**子供が理解できる「しかり方」～10の原則～**』を参考に見てみてください。



子供が理解できる「しかり方」～10の原則～

① できないことをしからない。

・努力しても「できないこと」があることを理解しましょう。

② 「ダメ!」など強い否定的な言葉かけには注意する。

・「ダメ!」で終わるのではなく、どうすれば「ダメではない」のかを具体的に伝えましょう。

③ 短い言葉で具体的にしかる。

・できるだけ短くシンプルな言葉を使いましょう。



④ 代名詞や抽象的な言葉は避ける。

・子供がはっきり理解できる具体的な言葉を使いましょう。

⑤ 怖い顔をして効果がない場合がある。

・相手の表情や身振りなどから、相手の考えや気持ちを理解することが苦手な子供には、絵カードやキーワードを使って、「しかられている」ということを認識できるようにしましょう。

⑥ 繰り返し何度もしからない。

・「ここぞ!」というタイミングでしかりましょう。
・「1回しかったら、2回ほめる」という気持ちで接しましょう。



⑦ 子供の注意を引き付けてからしかる。

・肩や腕を軽くトントンとたたき、注意を引いてからしかりましょう。

⑧ 問題が起こった時に、その場でしかる。

・時間が経ってから叱ることは、子供の混乱を招くことにつながります。

⑨ 感情的にならない。

・怒りの感情を子供にぶつけることは、子供を不安にさせてしまいます。

⑩ 罰を与えない。

・罰は、「きずな」「信頼感」「子供らしい心」等を壊してしまうことを理解しましょう。